

## 8月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

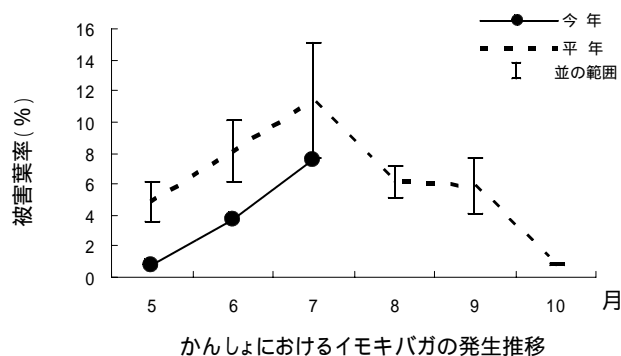
### 沖縄群島

#### 1 かんしょ

##### (1)イモキバガ

発生程度： 並  
予報の根拠

7月下旬の調査の結果、被害葉率は7.6%（前年6.2%、平年11.4%）と平年並であった。



#### 防除上注意すべき事項

- 7月にかけて発生のピークが見られ、9月頃まで発生が多い。乾燥した天候が続く年に多い。
- 本虫は年6～7世代をかさね、各態が年中見られる。防除は発生初期に重点をおく

#### 2 ミズイモ

オキナワイナゴモドキ、イッポンセスジスズメの防除について

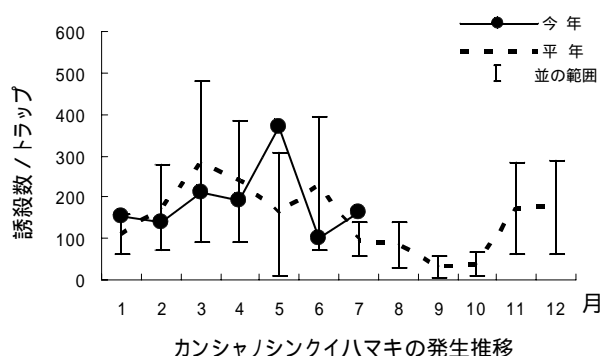
- 7月下旬の調査の結果、オキナワイナゴモドキの被害葉率3.9%（例年4.8%）、イッポンセスジスズメの被害葉率2.6%（例年7.5%）であった。
- オキナワイナゴモドキは盛夏に多発し10月頃まで発生が続く。
- オキナワイナゴモドキは成虫、幼虫が群生し葉を激しく食害する。イッポンセスジスズメは幼虫が昼夜を問わず葉を食害し被害が大きくなる。
- 幼虫は見つけしだい捕殺する。若齢期をねらって薬剤防除する。

#### 3 さとうきび

##### (1)メイチュウ類

発生程度： やや多  
予報の根拠

7月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は163頭（前年131頭、平年98.0頭）と平年よりやや多かった



#### 防除上注意すべき事項

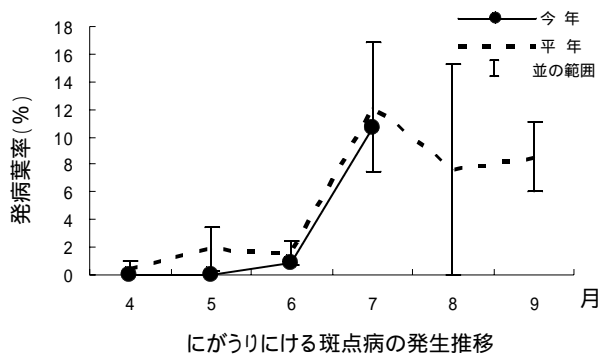
- 加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- 夏植の苗植付時には、土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

#### 4 iga(露地・平張り)

##### (1) 斑点病

発生程度: 並  
予報の根拠

- a 7月下旬の調査の結果、発病葉率10.6%(前年5.8%、平年12.1%)と平年並であった。
- b 本病は例年、夏場に多く発生する傾向にある。



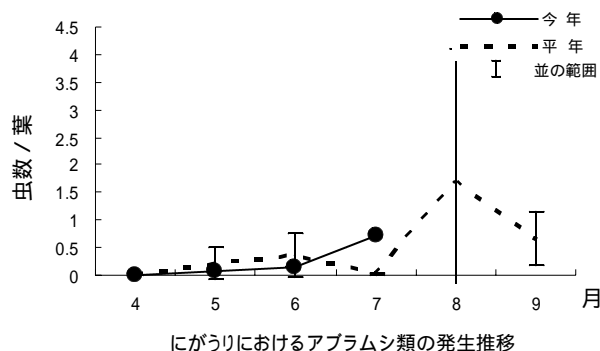
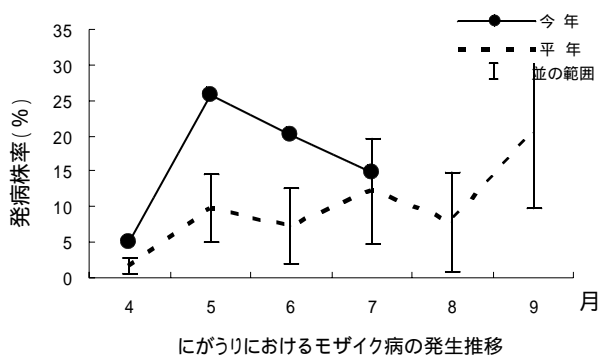
##### 防除上注意すべき事項

- a 老葉や病葉は発生源になるので除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- b 圃場の排水を良くし、密植にならないように注意する。
- c 窒素過多にならないように適正な施肥管理をする。

##### (2) モザイク病

発生程度: 並  
予報の根拠

- a 7月下旬の調査の結果、発病株率は14.9%(前年0.45%、平年12.2%)と平年並であった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は0.71頭(前年0.03頭、平年0.002頭)と平年より多く、一部圃場で多発生が見られた。



##### 防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第2号(平成16年6月7日付け)参照

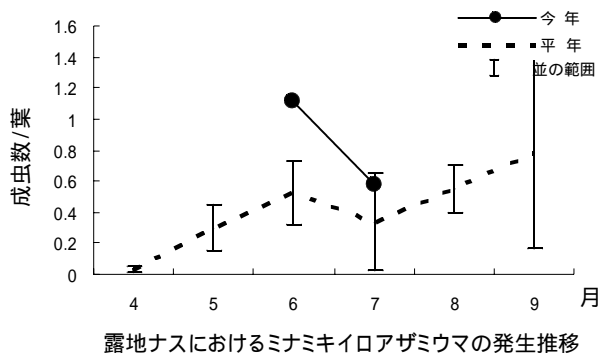
## 5 なす(露地)

### (1) ミナキイロアザミウマ

発生程度: 並

予報の根拠

- 7月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.57頭(前年1.67頭、平年0.34頭)と平年並であった。
- 一部圃場で多発生が見られた。



#### 防除上注意すべき事項

- 圃場の周囲に寒冷紗等による障壁を設置し飛来侵入を防ぐ。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。